

（ 温泉地の活性化を目指す十津川村 ）

6月28日、十津川村は、十津川温泉郷のすべての温泉施設で、お湯を循環させず源泉かけ流しを実現したことから「源泉かけ流し宣言」であることを宣言した。

「源泉かけ流し」とは、源泉から湧き出たお湯を湯船に流し、捨てるという、非常に贅沢に湯を使う方法である。お湯を再利用しないので浴槽のお湯は常に新鮮で、「生きた温泉」となる。

村内には、旅館、民宿計20軒と公衆浴場5か所の温泉施設があるが、村内すべてを源泉かけ流しとするのは、全国初の試みとして注目されている。

同村には、温泉地（とうせんじ）、十津川、上湯の3つの温泉があり、十津川温泉郷と呼ばれている。湯の温度は56～85度と高く、湯量も600～800ℓ／分と豊富。

道の駅「十津川郷」の前には、足湯を設置しており、今年度中に温泉の湯を飲む飲泉も可能になる予定。

十津川村は、「豊かな緑」「清らかな溪流」「歴史ある古道」を有しており、「ほんもののお湯」にゆっくり浸かり、「心も体も癒されてほっとする、また来たくなる村」「日本のふるさと」を目指している。

【日本一広い村 十津川村の見所】

「谷瀬の吊り橋」は、上野地から対岸の谷瀬へ高さ54m、長さ297mの日本一の長い橋で、渡る際のスリル感が人気を呼んでいる。

「笹の滝」は、日本の滝百選に選ばれている。国道168号線滝川口より東へ12km。落差約32m、滝そのものの姿もさることながら、滝壺よりあふれ出て、白くなめらかな岩肌を洗う流れも一見の価値がある。

「玉置山」は、昭和58年日本の森林浴百選に選ばれた標高1,076mの名山。古くから聖地として開け、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」にも含まれる。玉置山の頂上近くに鎮座する玉置神社の本殿は、豪壮な入母屋造りで、総檜材。境内一円の巨杉群には、周囲8～10m、高さ30～50mに達するものがあり、本殿の真後ろあたりの神代杉は樹齢3000年と言われている。（上田）



十津川温泉



笹の滝



玉置神社

（写真提供：十津川村観光課）